

平成13年5月23日
新エネルギー・産業技術総合開発機構
理事長 松井 秀行

平成13年度「福祉用具実用化開発費助成金」の交付先決定

新エネルギー・産業技術総合開発機構助成金採択
(平成13年度)

(要旨)

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)では、平成13年度「福祉用具実用化開発費助成金」の交付に関し、10件の新規テーマの採択を決定しました。

(内容)

1. 今回の採択状況

この助成金は、福祉用具法に基づき、優れた技術や創意工夫が活かされた実用的な福祉用具の開発を支援するもので、平成13年度は、全国129件の応募の中から、10件の新規テーマの採択を決定しました(別紙1(PDF))。
用途別には、移動/移乗(車いす関係)(3件)、就寝/姿勢保持(1件)、リハビリ/レクリエーション(1件)、誘導/監視(1件)、その他(4件)と、幅広い分野を対象とする結果になりました。

2. 次の公募予定

平成14年度のテーマにつきまして、本年11月から来年1月にかけて公募を行う予定です。

(本プレス発表の内容についての問い合わせ先)

NEDO医療福祉機器開発室 青山・石田・蛭谷 電話 03-3987-9353

なお、本件は経済産業記者会、経済産業省新聞記者会ベンクラブ及び経団連会館内エネルギー記者会で同時に資料配布を行っています。

(参考1: 制度の概要)

1. 目的

「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」(福祉用具法)に基づき、福祉用具の実用化開発を助成することにより、心身の機能が低下した高齢者や心身障害者の自立の促進と介護者の負担軽減を図り、福祉の増進に寄与するとともに産業技術の向上に資することを目的としています。

2. 助成の対象

福祉用具の実用化に関する研究開発テーマとして応募されたものの中性、技術開発要素、利用者のニーズ、経済性、市場規模等について審査対象となる事業を決定しています。
なお、審査にあたっては、福祉用具に関する学者・研究者、高齢者医療リハビリテーション等の現場の専門家の意見を参考としました。

なお、審査にあたっては、福祉用具、リハビリテーション等の現場の専門家の意見を参考としました。

3. 助成率及び助成金の額等

- 助成率は、当機構が認めた助成対象費用の3分の2以内です。
- 助成金の額は、1件につき全期間で約3千万円前後を目安としています。
- 13年度予算額は、2. 43億円(経済産業省産業技術環境局一般会計)です。(12年度予算額 2. 43億円)
- 研究開発期間は、3年以内としています。

(参考2: 応募状況)

- 平成12年12月1日から平成13年1月24日にかけて公募を行いました。
- 東京を始め全国8カ所で公募説明会を開催したところ、延べ503名の出席がありました。
- 応募総数は、129件に上りました。このうち、首都圏以外からの応募が約8割、また、応募の9割を中小企業が占めました。

(参考3: 実用化の状況)

昨年度までに研究開発が終了したテーマのうち、水道の水圧で駆動する家庭用入浴介護支援リフト、高精度で高速な点字の読み取り装置、施設等のスロープ浴槽用の座高可変入浴車、視覚障害者用の点字プロッタ、高齢者・障害者用の駐車誘導表示板、障害者用の座位保持装置、高齢者・障害者用グランド・ゴルフ、視覚障害者用携帯型音声合成装置、旅行用超軽量携帯用車いす、高齢者・障害者用自立促進シューズ、つかい捨ておしゃべりオムツカバー、抑揚を制御できる電気式人工喉頭、ダイレクト駆動電動車いす、などの福祉用具が実用化されています。

(参考4: 「NEDO医療福祉機器開発室」について)

- 「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」の施行にともない、平成5年10月1日に、NEDO(サンシャイン60)内に設置されました。
- 医療福祉機器分野の産業・技術の支援、普及促進や情報提供を実施しております。

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
福祉用具実用化開発費助成金

※株式会社 エー・アイ・エスは安心計画株式会社の前社名です

平成13年度 新規 テーマ概要 (10件)				別紙1
件数	テーマ名	会社名	研究場所	内容
1	福祉住環境設計支援CADの開発 (13年度)	株式会社 エー・アイ・エス	福岡県 福岡市	建築士が高齢者・障害者の住宅を設計する際に、その住宅居住者の身体機能が生活機能に適合し、かつ、福祉住環境等の基準を満たしているかどうかを判断し、どこに注目して設計しなければならないかの注意事項やチェック事項を立体的にガイド表示するシステム。
2	車椅子利用者向けシッティング（座位型）ファッション衣服の開発 (13年度)	キノ・ノードプランニングルーム	岐阜県 岐阜市	福祉現場との連携を基に車椅子使用障害者の社会活動支援、自立支援を目的に機能的で、ファッション性のある衣服を提供する。車椅子使用障害者の画像データよりデータベース化をはかり、標準化の道を探る。
3	車いす用多用途テーブル・かごの開発 (13年度)	株式会社 ウェルパートナーズ	岡山県 岡山市	車いす生活者の有意義な社会生活を支援するために、より様々な状況（例えばパソコンの使用、携帯電話等の収納、楽しく買い物などを）に対応できる車いす用多用途テーブル・かごを開発する。使用時には最適の位置に配し、容易に脱着可能、回転移動をすることにより乗り降りが可能となる構造。
4	座面昇降、スタンドアップ機能付電動車椅子の開発 (13年度)	関東自動車株式会社		
5	車いす用電動補助駆動装置の開発	ミニ・株式会社		



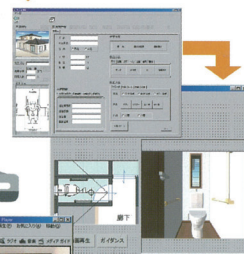
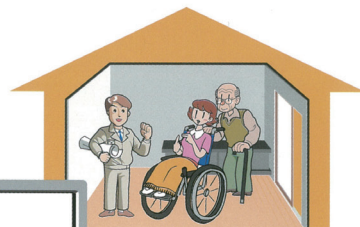
福祉用具実用化開発助成事業

福祉住環境設計支援CAD

福祉住環境設計
ガイダンスシステム
House for Independence support

hisplan ~ヒスプラン~

居住者の身体状況は？
適切な福祉器具は？
効果的な住宅改修は？



(監修) 労働福祉事業団総合せきセンター
主席研究員 松尾清美氏

「介護」から「自立支援」へ

高齢者・障害者の住宅を新築または改造する際に、居住者の身体状況と生活方法をチェックし、どこに注目して設計すべきかをガイドするシステムです。



Win, Win
住む人と暮らす人の喜びの融合



e-mail win@e-ais.co.jp
http://www.e-ais.co.jp/

事業計画名 : 福祉用具実用化開発費助成金
補助金額 : 9,000,000 円